置県百年

富山県

ごあいさつ

輝かしい置県百年を迎え、県民の皆さんと心から喜び合いたいと存じます。

富山県が経験したこの百年は〝水とのたたかい〟をはじめ多くの困難に満ちたものでありましたが、わが先人は労苦と英知、進取の気性をもってこれを乗り越え、今日の本県の繁栄を築いてきました。

私たち富山県民は、いま、この大いなる歴史の節目に当たり、次の世紀をより実り豊かなものとするため、県民総ぐるみで「活力と温かい心に満ちた美しいふるさと富山県」の実現をめざして―一歩一歩着実に前進していかなければならないと存じます。

ここに、先人の遺業をしのぶとともに、現状を冷静にみつめ、さらに未来に向かって大きく飛躍する手がかりとなることを念願して『置県百年 富山県』の小冊子をとりまとめた次第であります。

この機会にご家族や友人の方々などと私たちの郷土富山県について大いに語り合っていただけたら幸いに存じます。

昭和五十八年五月九日

富山県知事　中沖　豊

目次

●発展をつづける県政……1
●県民と産業……5
●交通と通信……9
●災害の克服……13
●世相と生活……15
●あすをつくる教育……19
●芸術文化……23
●健康・福祉と国際交流……27
●ひらけ富山新世紀……29
●富山県年表……31

●発展をつづける県政

百年前に富山県が分県 独立

米沢紋三郎と建白書の写し

燃えあがる分県運動

明治のはじめ、下図のように県の区域はめまぐるしく変った。

九年に石川県となったが、越中側は「河川の改修」を急務とし、加賀・能登側は「道路の修築と官公署の建築」を第一とし、県会ではことごとに対立した。それで「越中を救う道は、分県あるのみ」という考えが燃えあがってきた。

入善の米沢紋三郎、富山の入江直友、伏木(高岡)の藤井能三、般若野(高岡)の島田孝之たちは分県運動に奔走。米沢らは分県の建白書をたずさえて上京。太政大臣三条実美や右大臣岩倉具視、参議 内務卿山田顕義らに陳情した。参事院にいた磯部四郎、司法省にいた河尻尚泰、石埼謙らの越中人も協力。熱意は政府を動かし、明治十六年五月、めでたく富山県の独立をみたのである。

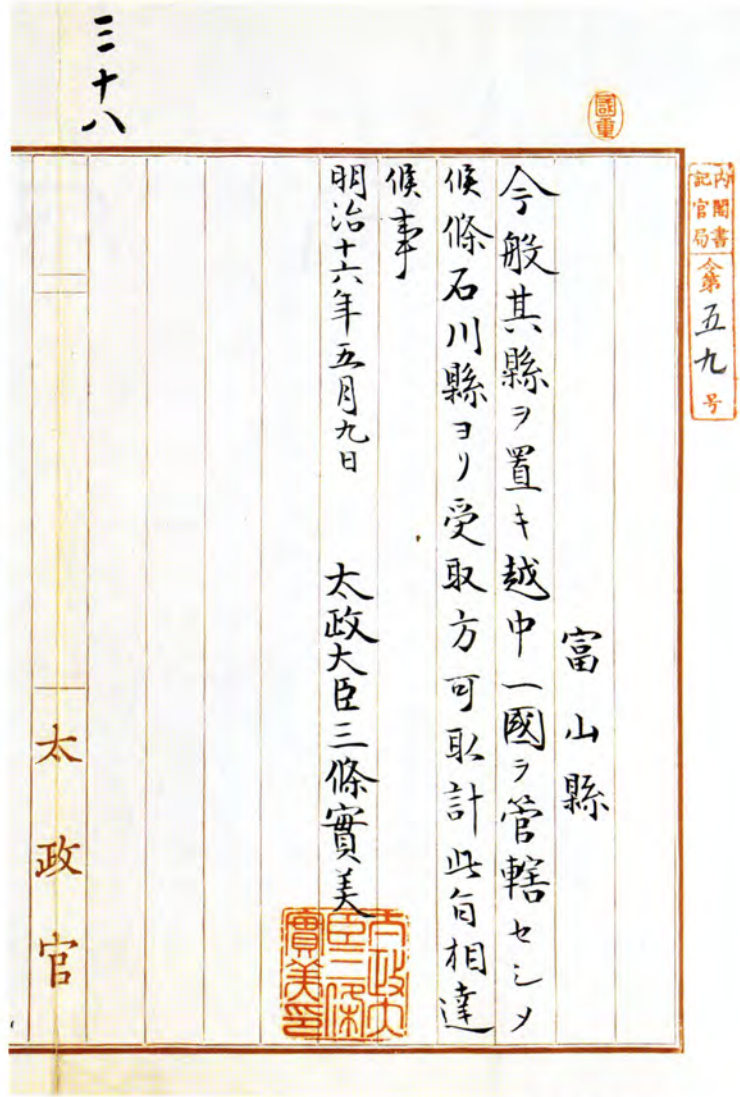
「ある菓子屋が分県まんじゅうと名付けて売り出したところ、売れに売れた」と朝野新聞は、県民の喜びを伝えた。

富山県へのうつりかわり

越中(4郡)と加賀・能登

明・5・9・29　七尾県が廃され、射水郡が新川県に入る

明・4・11・20　射水郡を七尾県に、新川婦負・砺波郡で新川県設置



富山県を置き、越中一国を管轄させることになったので、石川県から引継ぎを受けるよう、太政大臣三條実美より通達された文書

初代県令 国重正文（一八四〇～一九〇一）

長州藩閥の出身。同郷の先輩山田内務卿から激励されて、京都府大書記官から着任。四十四歳の働きざかり。二百十石どり国重三郎右衛門の長男で、藩校の明倫館で勉学したが、吉田松陰の松下村塾の影響も受ける。漢籍に通じ詩文をよくし、半山と号した。分県運動に奔走した米沢紋三郎、入江直友らとも親しく交わり、新組織の県会ともよく協力し、県政の基礎づくりに当った。

最も重点を置いたのは教育で、当時学制は発布されたとはいえ、就学率は極めて低かった。学校を熱心に巡回し、請われて校名を揮毫した書額は、今も残っている。明治十八年には最初の中学校（現富山高校）をつくった。その他、常願寺、庄川の改修、十九年のコレラ対策、富山大火のあと、二十年の瓦葺の奨励、防火用水の整備など、数々の業績をあげた。在任五年六ヵ月、官選知事で最も長い。内務省社寺局長に転じ、国学院院長から晩年は京都伏見稲荷宮司をつとめた。

明治の富山市役所（上）と福光町役場（下）

明治二十二年四月、市制町村制が施行され、新しく二七一の市町村が誕生した。市は富山と高岡の二つ。この規模の県が二市を持ったことは誇っていい。

初代議長　武部尚志

初の県会議員は二十二名

県庁にある水力電気記念の銅板の一部

富山県の歴史は、水との戦いだった。その水を発電に利用したことは、まさに「災いを転じて福となす」といえる。大正九年、東園基光知事は県営の水力発電事業に着手。その益金は県財政をうるおした。

市町村数の変せん

年　月　日	市	町	村	計	摘　　要
明治22・3・31	—	190	2,454	2,644	市制町村制施行直前
明治22・4・1	2	31	238	271	市制町村制施行
昭和10・4・1	2	33	228	263	市域の拡張による合併等
昭和15・12・1	2	31	205	238	紀元2,600年記念合併等
昭和22・5・3	2	29	183	214	地方自治法施行
昭和28・10・1	5	28	118	151	町村合併促進法施行
昭和34・4・1	8	24	10	42	町村合併推進
昭和57・4・1	9	18	8	35	

明・4・7・14（廃藩置県）　藩が県になる

明・2・6・17（版籍奉還）　富山藩（婦負郡の全郡と新川郡の1郡）がそのまま富山藩に、加賀藩がそのまま金沢藩になる

明・16・5・9　富山県設置

明・9・4・18　石川県となる（同年8月敦賀県の廃止により、越前7郡も石川県に入ったが、14年2月福井県設置により分離）

天皇陛下行幸
昭和二十二年十月、菊の香かおる富山路へ行幸。多数の県民と接し、人間天皇ぶりを発揮された。富山市の昭和電工にて。

初代民選知事　館哲二
昭和二十二年四月、新しい地方自治法の施行により、知事は県民の直接選挙で選ばれることになった。以降
高辻武邦（昭23～）
吉田　実（昭31～）
中田幸吉（昭44～）
中沖　豊（昭55～）
に至る。

富岩運河掘削のトロッコ
この土砂は神通川廃川地の埋立てに使われた。

大正期の電力開発は昭和に入って工業県富山への脱皮をもたらした。富岩運河の掘削と東岩瀬港の修築による富山・岩瀬地区工業地帯の造成は、その顕著な例である。東岩瀬から神通川に沿って富山駅裏に達する、延長四、七五八メートルの運河は、昭和十年に八年の歳月をかけて完成した。しかし今は貯木場と化し、大役を果して静かに休息する老人の姿を思わせる。

富山北部工業地帯

昭和10年完成した、現県庁舎　草ぼうぼうの神通川廃川地に偉容をあらわした。

県議会議事堂　昭和46年に完成

富山新港開港式
日本海時代のおとずれを告げる富山新港は、昭和四十三年四月、開港した。万葉の歴史を秘める奈呉の江、放生津潟は、近代的な港に装いを改めた。

計画県政
富山県は、昭和二十七年、全国にさきがけて総合開発計画を策定した。この計画県政の方針は、今も引継がれている。

町村合併の住民投票
昭和三十四年十二月、下新川の野中地区。自治体の強化を図ろうとする国の方針に応えて、二十八年ごろから県下の合併は急激に進んだ。住民運動や紛争も少なくなかった。

黒四ダム
奥黒部の秘境に、世紀の大工事が昭和三十八年に完成

文化施設の充実
「文化の時代」の到来を告げるかのように、昭和五十四年ごろから、県立近代美術館、富山市科学文化センターを始め、各地に博物館や文化会館が建設された。利賀村には野外劇場が完成し、国際演劇「利賀フェスティバル'82」が開催された。

富山県立近代美術館　昭和56年、富山市城南公園にモダンな姿をあらわした。

利賀村野外劇場　昭和57年に完成

●県民と産業

一人一人の勤勉さが発展のエネルギー

明治の売薬さん
黒風呂敷に薬の入った柳ごうりを包み行商。わらじに巻きゃはん、鳥打ち帽子、手には懸場帳がみえる。

富山売薬の製造風景
大正期の広貫堂

おみやげの紙ふうせん

勤勉な県民と産業

富山県民は、勤勉で忍耐強く、よく時代の動きを巧みに取り入れてきた。豊かな水により農業と工業の調和ある発展をもたらした。

明治・大正期は、稲作が主で、品種の改良や農業用水の建設、耕地整理に努めた。米は開拓の進む北海道や関西に送られ、北海道移民も活発で、にしんなどの魚肥が移入され、れんげ草と共に稲作の肥料に役立った。

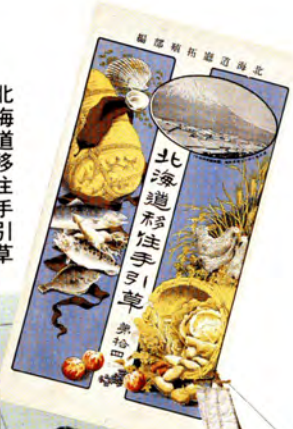
米価が値上りした大正七年、県内に起った米騒動は、全国に波及した。

大正十年ごろからは工業生産が農業を上回り、繊維製品、売薬、酒の製造が盛んであった。すでに明治三十二年、神通川水系の大久保で水力発電が行われ、その後電源開発が進んだ。その安くて豊富な電力を利用して、伏木・高岡地区に化学、紙パルプ、鉄鋼など、また北陸線沿線に紡績工場の建設が進んだ。昭和初期の不況期には、ブラジルに移住した人もあった。

高岡金屋町の鋳物工場
大正三年ごろ、新式溶解炉、扇風機、蒸気機関などの機械化が進んだ。

昭和初期の呉羽紡績
(東洋紡)工場
呉羽駅に隣接して設立

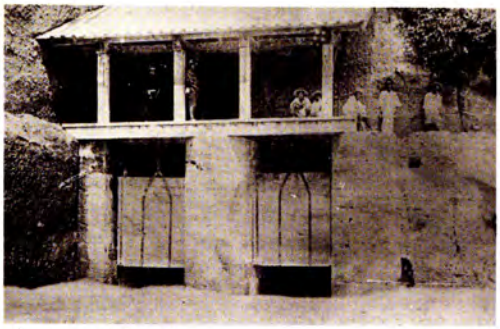
城端の農家の足踏み手ばた
明治三十五、六年ごろの絹織物製造風景



北海道移住手引草
明治・大正期の移民説明案内書。多数の県人が渡った。

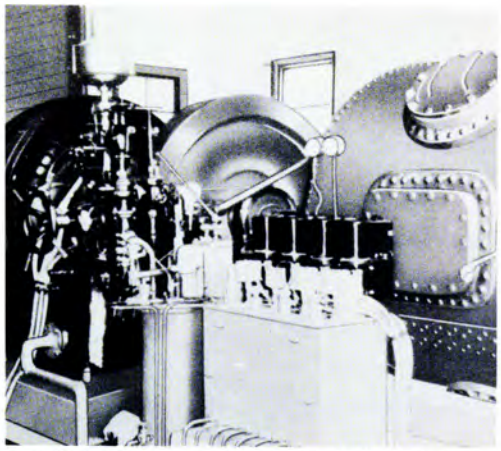
ブラジル移民
昭和初期の移民船上の家族たち(アリアンサ村入植)

北前船
明治期に北海道との交易に活躍し、弁財船・バイセン とも呼ばれた。東岩瀬港の米田家の千石積の帆船模型



常西合口用水取水口
明治二十五年上滝で完成。常願寺川からの取水口を一つにして、農業用水の効率的な配分を行った。

農家庭先のもみすり作業
明治末期の保内村(現八尾町)



大久保発電所　明治32年完成、出力150キロワット。発電機はアメリカより輸入。富山市で初めて957灯の電灯がつく。

流木事件　庄川小牧ダムの建設にからんで、大正末期から昭和初期にかけて、流木業者とのトラブルは流血の惨事を生み、天下の注目を集めた。

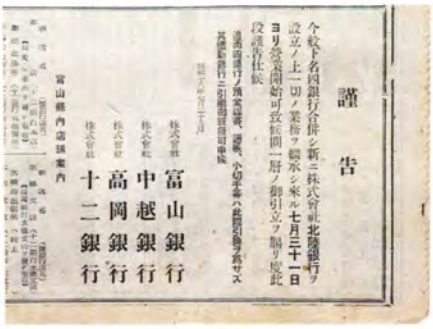
▼生活難を絶叫せる
二千名の大集團
◎警官・郡長等の鎮撫も効なく
殺到して大喧騒を醸せり
本日の滑川町等にて救濟方法を講ず

米騒動の報道
(高岡新報・大正七年八月七日付)

銀行紙幣
県内で最初に発行されたもの。

十二銀行本店
明治33年富山市中町（中央通り）に改築。
火災で焼失したので防火施設を重視

北陸人造肥料工場（現日産化学）明治末期の伏木



謹告

今般下名四銀行合併シ新ニ株式會社北陸銀行ヲ設立ノ上一切ノ業務ヲ繼承シ來ル七月三十一日ヨリ營業開始可致候間一層ノ御引立ヲ賜リ度此段通告仕候

富山銀行　株式會社
中越銀行　株式會社
高岡銀行　株式會社
十二銀行　株式會社

富山縣內店頭案內

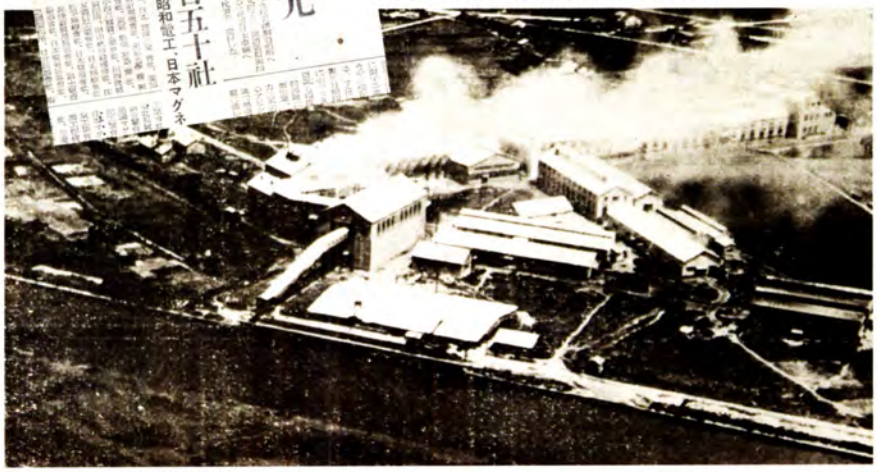
銀行統合
昭和十八年、富山・中越・高岡・十二の各銀行が合併し、北陸銀行として発足

県営野積場　昭和10年ごろの東岩瀬港（現富山港）

軍需會社第一回指定
生産增強に新紀元
指定軍需會社は百五十社
不二越、日本鋼管、昭和電工、日本マグネ

軍需会社指定
多くの企業は国家の統制管理下に入る。
（北日本新聞・昭和19年1月17日付）

日満産業大博覧会場
昭和十一年四月十五日～六月八日、富山市神通川埋立地（現在の電気ビル西側から市役所にかけて）



日満アルミ（現 昭和電工）
初期の富山北部工業地帯

昭和初期、富山北部の工業化が進み、金属、化学などの大工場が続々と進出してきた。また満州との交流が活発化した。戦時には、富山県は重要な工業地帯となった。また企業の統制、合同が進み、北陸銀行、富山地方鉄道、北日本新聞などが生まれた。

戦後の混乱期には、各地にヤミ市が発生。農地改革が行われた。労働者の祭典のメーデーが華やかに行われるようになり、労働運動が前進した。

高度成長期には、「富山・高岡新産業都市」が指定され、富山新港背後地に、アルミ中心の臨海工業地帯が造成された。他方では公害が大きく発生した。石油ショックで打撃をうけたが、中小企業団地もでき、ファス

不二越のロボット工場

吉田工業黒部工場

第20回全国植樹祭
両陛下をお迎えして、昭和44年５月
砺波市頼成で開催

岡部呉服店
県内初の三階建洋館。富山市中町（中央通り）角に大正十二年にできた。

近代化する農業 昭和30年代後半より農業の基盤整備が進んだ。(立山町)

新川牧場
昭和47年、畜産振興をめざして造成(黒部市)

県栽培漁業センター
昭和54年、氷見市姿に設置

富山のメーデー
戦後は各地で労働者の祭典がはなやかになった。

ナーなど各種の工業が県内に広く分布した。

農林業は、構造改善事業が進み、兼業率が高まった。なお水産業は、古くから定置漁業や北洋漁業が盛んであった。戦後は減退したが、さけ・ます漁業に出稼ぎしている。また栽培漁業も行われている。商業は流通革命も進み、スーパー・マーケットが各地に出現した。

伝統産業としては、今も全国行商の富山売薬業をはじめ、高岡の銅器、井波の木彫刻、八尾の手すき和紙なども有名である。

●交通と通信

地域のひろがりへの努力

弁慶号
中越鉄道（城端線）開通当時の福光駅における蒸気機関車（英国より輸入）

明治初期の神通川舟橋
規模が大きく越中の名所とされた。

五箇山の鉄鎖吊橋
明治八年、下梨と大島間の庄川に架けられた吊橋

道路と橋梁の近代化

明治十一年、明治天皇の北陸巡幸を契機として、県内の橋や道路の整備が進んだ。十六年に神通川の舟橋を木造橋に替えたのを始め、十年ほどの間に庄川の中田橋、早月川の早月橋、常願寺川の常願寺橋ができた。

道路整備は明治十八年に初めて、泊～富山～石動間が国道になり、国道八号線の基ができた。その後、県道・市町村道の整備は大いに進んだ。昭和四十八年には北陸高速自動車道が砺波から小杉まで開通し、五十五年に米原と結び、五十八年には朝日町まで延びる予定。

木造の福光大橋　明治三十八年ごろ

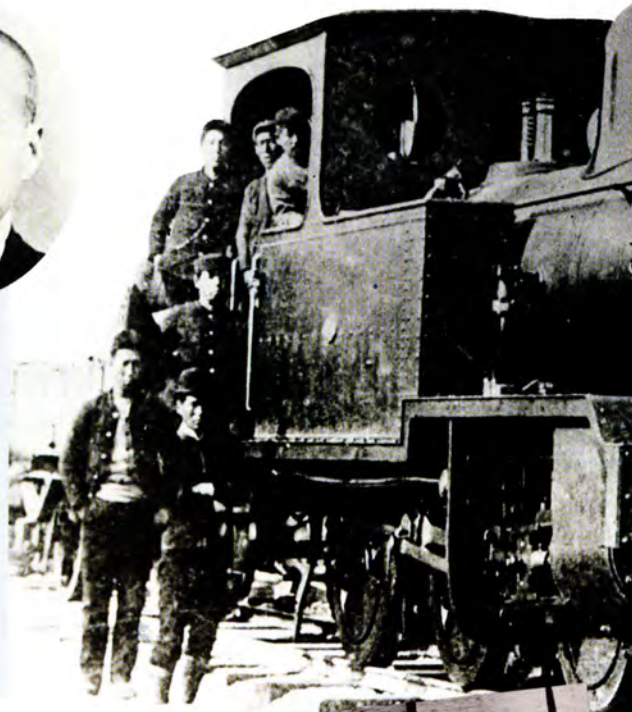
延びゆく北陸高速自動車道
富山インターチェンジとその周辺

旧国道八号線工事
明治・大正時代の呉羽山越えは、急な坂道であったが、昭和八年に改修された。

複線電化が完成　北陸線富山駅付近

県内鉄道の創始者
大矢四郎兵衛
（一八五八～一九二一）

大矢四郎兵衛は、砺波郡鷹栖村（砺波市）の出身。県会議員を経て衆議院議員になる。砺波地方の産業振興のため島田孝之代議士と図り、呉西の有志の賛助を得て、中越鉄道株式会社を創立。黒田（高岡市）城端間に列車を走らせた。以来、この鉄道（城端線）によって、砺波地方の産業経済は大きく発展した。



ゴム輪の自転車登場
明治三十五年に、東京から五～六日かかって福光まで乗ってきたという。

明治末期の乗合馬車
山田温泉前

明治三十一年高岡まで開通した北陸線
小矢部川鉄橋を初渡りする列車
（小矢部市福町）

人力車
明治三十五年、魚津の料亭前

大正初期の市内電車　富山市西町付近

陸上乗物の発達

富山県の鉄道の始まりは、中越鉄道（城端線）で、明治三十年に黒田（高岡）と福野間が開通した。北陸鉄道（北陸線）は三十一年に金沢と高岡間、翌年に富山まで開通。北陸線の複線電化は、昭和四十四年に完成した。

市内電車は大正二年に、富山駅と堀川駅間に開通。

このほか、人力車は明治十年ごろ、乗合馬車と自転車は三十年ごろに出現。近年、マイカー普及率は大きくのびたが、交通事故が増加している。

明治初期の伏木港岸壁
絵図の汽船は、石崎回漕店所有の「石崎丸」で、英国製

大正初期の伏木港

大正時代の魚津港　沖に汽船が停泊している。

海運と航空

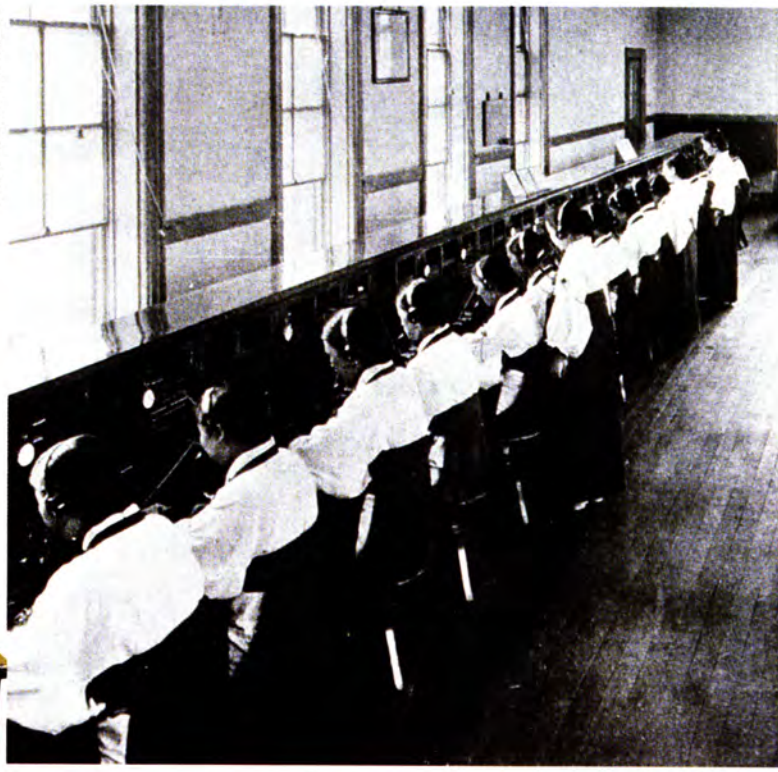
明治八年、伏木港に初めて汽船が入り、木造の北前船に代って鋼鉄製の蒸気船の時代を迎えた。同港は三十二年に開港場に、昭和十四年に東岩瀬港が開港場になった。

日本海時代の到来を告げる富山新港は、四十三年に開港した。

昭和八年婦負郡倉垣村(富山市)に富山飛行場が造られ、九年に東京への定期航空開始。所要時間は、立山を越えて約二時間。三十八年に富山市秋ヶ島の神通川河川敷に現富山空港が開設された。現在は五十九年にジェット機就航を目ざして、改修中である。

昭和八年富山飛行場が倉垣(富山市)に開港

改修中の富山空港



昭和初期の高岡郵便局電話交換嬢
当時の女性の新しい職場

大正時代の郵便配達員の姿
福光郵便局前。当時ははっぴに巻きゃはん

郵便制度初期のはさみ箱
この箱二個を天秤棒の前後に吊して、郵便を運んだ。

明治初期の一銭と一銭五厘の郵便はがき

NHK富山放送局 昭和十年開局
昭和十一年、放送された初のラジオドラマ「村に春が来る頃」の出演者たち

旧式電話機
上は壁間掛電話機、下は磁石式卓上電話機。送話機と受話機は別々。手動で交換手を呼び出して、相手方の電話につながせた。

テレビの普及・発達に貢献した**正力松太郎**

通信と放送

明治五年に初めて魚津に郵便役所が開設。十一年に魚津電信局が創設された。電話は、三十九年に富山電話局が設置され、通話を始めた。

昭和十年にNHK富山放送局がラジオ放送、三十三年にテレビ放送を開始。民間の北日本放送は二十七年にラジオ、三十四年にテレビ、そしてカラーテレビ放送は、両局ともに三十七年に開始した。富山テレビは四十四年に開局された。

現代の電話
電話の近代化と普及はめざましい。

●災害の克服

ふるさとの歴史は水とのたたかい

ヨハネス・デ・レーケ
常願寺川の難工事を指導したオランダ人技師。明治二十四年に富山へ来て、「これは川ではない、滝だ！」と驚嘆した。

今も続く常願寺川砂防の難工事

昭和三十八年の大雪
三八豪雪と呼ばれた大雪で、富山市総曲輪のアーケード落下

災害をのりこえて

富山県には急流の大河が多く、梅雨期にはしばしば大洪水を起こした。県民は水との戦いに苦労を重ねた。石川県時代に、水害復旧予算の少なかったことが、分県の一因だった。以来、河川改修・砂防などの治水工事を推進してきたので、しだいに大水害は減少した。

一方、台風による浪害と海岸浸食を防ぐ護岸工事なども行なわれている。雪害対策として、除雪機械を充実し無雪害町づくりが推進されている。このほか、山村のところどころに地すべりの被害がおこるので、

アベック台風
昭和四十年九月、二回の台風で県内河川は各所ではんらん。十七、十八日福野町山田川では堤防欠壊。地域総動員で、応急工事に活躍

ジェーン台風
昭和二十五年九月三日夕刻、富山湾を通過。各地に大被害。大門町

氷見市胡桃地区の地すべり
昭和39年７月16日午前11時50分ごろ
150ヘクタールの地すべりが発生

五六豪雪で活躍する除雪車

井波町大火
大正十四年九月七日
町内の大半を焼失

明治二十九年七月二十一日、神通川大出水
浸水は四千八百五十戸に及び、県庁大手前に船が往き来した。

対策を講じている。

火災の被害も大きく、明治期には大火が多かったが、近来、消防施設の整備と防火宣伝により、大火災の発生は減少してきた。

疫病として、明治十二年七月と十九年七月にコレラが大流行。両年ともに一万人を超える死者を出した。

消防施設の近代化
新型消防はしご車が出動放水して威力を発揮している出初式。県庁裏

富山大橋西詰の橋脚沈下
昭和四十四年七月二日、神通川大増水、V字形に陥没

水橋の浪害
昭和十年十一月十二日、富山湾に寄り回り波襲来

テトラポット群
海岸浸食から陸地を護る。朝日町

●世相と生活

思い出のあのとき このとき

ちょんまげとこうもり傘
明治四年に散髪令が出たがまだ結髪が残っていた。

明治初期の洋装
福光町の父子

明治時代のカレンダー
明治五年、太陰暦を廃止して、太陽暦を採用。新湊の商店が配布した暦

ランプ(石油灯)
明治五、六年ごろから、なたね油の行灯に代って普及

欧米文化の移入

明治時代は欧米文化の移入期で、文明開化の波にのって、県内でも、洋服・洋食・洋館・照明具・乗物など、衣食住にわたって生活の洋式化が進んだ。しかしこの開化も都市部に早くゆきわたったが、農村部はかなりおくれた。

粋なパラソルと和服姿
明治42年ごろの富山市中町通り(現中央通り)

明治中期の洋風建築
外観に日本建築の美を折衷した、朝日町泊の育英小学校

大正から昭和へ

大正期に入ると、第一次世界大戦の影響をうけて、商工業が躍進。デモクラシー時代を迎えて、労働者の権利・男女平等が叫ばれた。

また、新しい風俗が流行。都市部にはモガ・モボのハイカラな服装と髪形が出現。カフェー・喫茶店・映画館が繁栄した。また野球・テニス・ヨーヨー・玉突きなど、新しいスポーツと娯楽が流行した。

大正時代の映画館
明治・大正時代は映画を活動写真と呼んだ。無声映画で活弁がなつかしい。富山市の東洋館

昭和十年ごろのバー
富山市西町の盛り場にあったバー・タイガー

大正初期の水着姿
これでも大胆だと騒がれた。

兵隊ごっこ　明治・大正時代の少年たちは、兵隊のまねをして遊んだ。

朝顔型ラッパ付き蓄音機
大正の国産蓄音機

大正期の立山登山
このころから女性も登るようになった。

ござぼうし　明治・大正を通じて、子どもたちが着用した雨具。形が鳥や虫に似ているので、トンビほうし、コオロギござとも呼んだ。

戦時下の統制と終戦時の混乱

昭和六年満州事変勃発。以来、戦火は大陸に拡大し、ついに十六年太平洋戦争に突入。県民は日用品の切符制・言論思想の取締り・企業の統合など、統制と耐乏の生活に明け暮れながらも、頑張りつづけた。

二十年に終戦。物資欠乏によるヤミ売買が横行し、生活は混乱した。連合国米軍が進駐して民主化が進められ、自治制度の改革・学制の改革・農地改革・企業再編成などが実施された。一方、アメリカ文化がはんらんして、ジャズやダンスが流行した。

終戦直後の混乱列車
列車の運行はまひし、旅客は鈴なり

出征軍人を送る人なみ
富山大橋（当時は連隊橋と呼ばれた）

戦没軍人、無言の凱旋
歩兵、第三十五連隊 富士井部隊の戦没者遺骨富山に帰る。

大空襲による富山市の焼野原
終戦近い昭和二十年八月二日、午前零時十五分ごろ、B29の大編隊は突如富山市に焼夷弾、爆弾の雨を降らせた。全市は灰燼に帰し、罹災世帯二四、九一四・罹災者一〇九、五九二人・死者二、二七五人。地獄絵の惨状を呈した。総曲輪の大手通りから大和百貨店を望む。

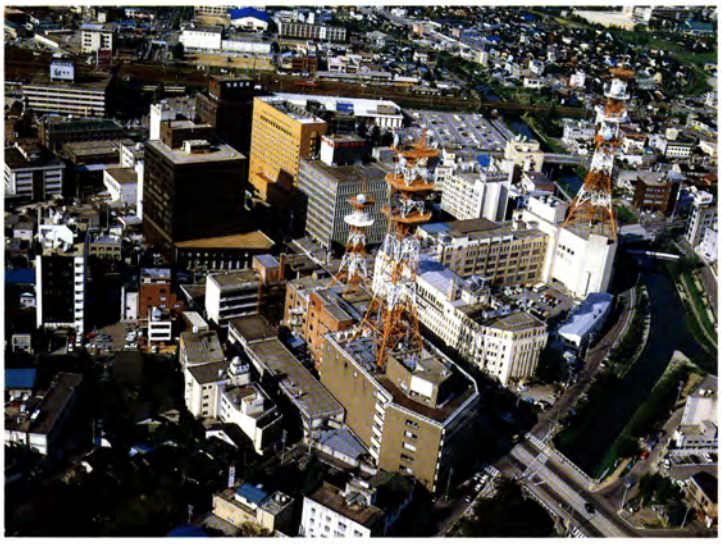
県議会に初の女性議員
昭和二十二年の県議会議員選挙に、氷見から池渕正 当選

疎開学童の受入れ（城端駅前）

進駐軍が高岡駅到着
昭和20年10月28日、駅頭で握手する木津高岡市長

ヤミ市繁盛　終戦後の物資不足から、公然とヤミ売買が横行。富山駅前

婦人警官初登場
昭和22年、富山・高岡両警察署に配属



富山市の高層ビル街

進む 住みよい 県づくり

昭和二十五年に朝鮮戦争が勃発し、特需景気により経済の復興が促進され、県民の生活にようやくゆとりがでてきた。家庭電化が普及し、さらにパチンコ・ボーリング・ゴルフ・旅行など、新しいレジャーブームを生んだ。また新しい流通機構の出現、交通網の高速度化、自然の保護などが進展した。二十七年以来、県は数次にわたって総合開発計画を策定し、住みよい県づくり、活力ある県民生活の実現に努めている。

空襲にそなえて
マスクとモンペ姿で水をバケツリレーする、富山市小島町の防空演習

家庭電化
新しい科学の進歩により、県民の生活は大きく向上

男女同権運動
民主主義思想が広まり、男女同権を叫ぶ婦人運動始まる。富山市

満員のパチンコ店　昭和22年ごろから流行のパチンコは、庶民の手軽なレジャー

ゴルフ場　大衆のものとなったゴルフ

●あすをつくる教育

若い力をはぐくむ情熱

県立高岡工芸学校
高岡の伝統産業を背景に設立。
幾多の優秀な美術工芸家を育てあげた。

県立富山中学校　理科教室での授業

県立富山高等女学校
本県最初の女学校。第１回入学者の年齢は最高21歳、最少12歳で、上流家庭の子女が多かった。

明治十六年、富山県の就学率は、男子七〇％ 女子三六％。そこで、特別教授の実施（短期の簡易教育で、毎日二時間、五月から七月まで）や、町村長、教員、警察官が就学督促、学用品の給与など、さまざまな試みにより、三十五年には男子九八％ 女子九四％と、飛躍的な増加をみた。その間、教員の養成のための師範学校がもうけられていた。さらに向学心に燃えた青少年の要望に応えて、十八年に富山中学校、続いて高岡・魚津・砺波の各中学校が開校された。他県に遅れていた女子教育では、三十四年、県立富山高等女学校、続いて高岡・魚津高等女学校が設立された。

大正の新教授法
ヘレン・パーカスト女史を講師として、児童の自由・自治・創造を重視し、児童中心の新教育講習会を開いた。

出席督促簿
登校できない理由を詳細に記載

報徳教育
明治に始まった報徳教育は、昭和初期の不況時には特に強力に進められた。養蚕実習。射水郡老田小学校（現富山市）

旧制富山高校
大正十二年、篤志家馬場はるの私財寄付によって設立

青春を謳歌する旧制富山高校生

県立福野農学校
農業の経営を学び、農業技術を身につける目的から、明治二十七年、簡易農学校として発足。明治四十二年の本校舎

学芸会
大正の中ごろから豊かな情操教育が、盛んになった。富山市清水町小学校 大正十五年

国民学校
時局の要請で、小学校は国民学校に改められた。富山市岩瀬国民学校

戦時の集団通学
ラッパを先頭に、隊を組んで登下校。ゾウリ履きの児童が多い。利田小学校（立山町）昭和十八年

県は実業教育の振興を図るため、明治二十七年に共立富山薬学校、高岡に工芸学校、福野に簡易農学校を開校し、大正十三年には高岡高等商業学校が設立された。

大正十三年、米国の新教育ダルトンプランの創始者ヘレン・パーカスト女史を招いて、個人別学習計画を研究実践し、教授法に新風を吹きこんだ。昭和になって、農村不況を打開するため報徳教育が奨められた。

太平洋戦争に入るや、学校教育も軍事色が強くなり、勤労青少年を育成する青年学校は、昭和十四年に義務制となり、特に軍事教練を重視した。十六年、小学校は国民学校となった。

戦後いち早く六・三制教育が制定され、個性と創造力の伸長をめざす民主主義教育が発足した。

冬期の乾布まさつ　心身鍛練のため、各学校で行われた。
正得小学校（現小矢部市大谷小学校）昭和18年

青年学校夜間授業
勤労青年体操。
伏木青年学校。昭和13年

富山大学
昭和二十四年、文理学部・教育学部・薬学部・工学部からなる総合大学として発足

富山女子短期大学
昭和38年創立。新時代の知識と技術を身につける学生たち

富山医科薬科大学
昭和五十年、新しい医学・薬学特に、和漢薬研究を取り入れたユニークな大学として発足。呉羽丘陵にたつ白亜の殿堂

県立技術短期大学
昭和三十七年、産業と学術の有機的結合を理念として創立

洗足学園魚津短期大学
昭和五十五年創立。充実した音楽施設を持ち、社会人にも講座を開放

県立高等技能学校
技術革新に即応し、現に就職している人や未就職者に新しい技術を授ける。

呉羽少年自然の家の野外活動　集団活動の規律のもとに、大自然のなかではねまわる子どもたち

生涯学習　書道を学ぶ宇奈月町民。多くの科目の中から、好きなものを選択して学ぶことができる。

富山市勤労青少年ホームの陶芸教室
地域に根ざした、青年たちの学習活動

公民館活動　造花づくりを楽しむ婦人たち

県立図書館　市町村立図書館への貸出しや、資料提供など、図書館活動の中核である。

県民大学校　昭和四十九年、第一回の県民大学校を開校してから、年を追って学習意欲がもりあがっている。

昭和二十三年に旧制中学校、高等女学校などが新制高校となり、二十四年、旧制高等学校、専門学校を基にして富山大学となる。その後、国立工業高専・国立商船高専・県立技術短大や富山女子短大・洗足学園魚津短大などが開学。五十年、富山医科薬科大学が創設された。なお高岡に国立短大の開学準備が進められている。

向学心に富む県民は、生きがいを求めて生涯学習を希望し、また教養創作の学習グループが増えつつある。

県は四十九年に、県民大学校を開設した。現在市町村でも、多くの市民大学・町民講座等が行われている。

各種学校
職業や実生活に直結する。

●芸術文化

ふるさとに咲くかずかずの華

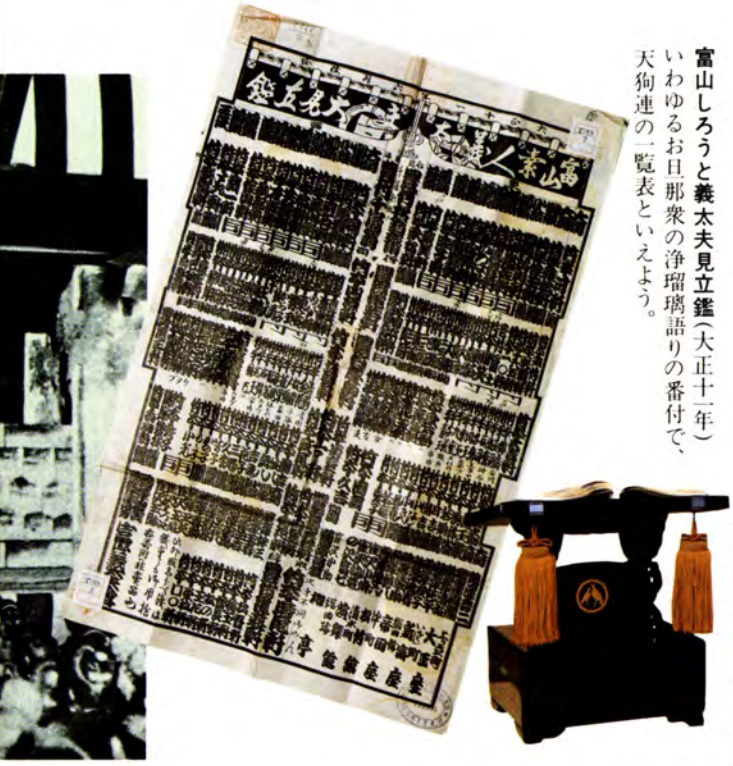
漢学と漢詩人たち

明治の地方文芸の担い手の多くは、豪農豪商層の教養人たちで、士族の多い石川県と対象的である。

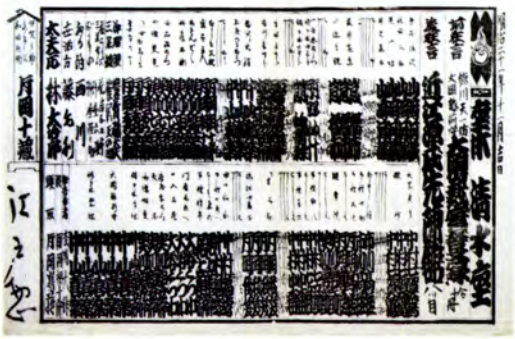
その多くは漢学に基礎を置いたので、漢詩人が多かった。富山市宮尾の内山外川（一八六四～一九四五）婦中町鵜坂の岡崎藍田（一八六一～一九三九）高岡市木町の大橋二水（一八五九～一九四〇）らのほか、大正・昭和期には小杉町の片口江東（一八七二～一九六七）らの活躍が目立った。

大橋二水

片口江東



富山しろうと義太夫見立鑑（大正十一年）いわゆるお旦那衆の浄瑠璃語りの番付で、天狗連の一覧表といえよう。



明治二十一年富山市清水座で上演された「近江源氏先陣館」などの番付

越中浄瑠璃

金沢を代表する芸能が武家文化の宝生流の謡曲であるのに対し、富山の芸能は町人文化の浄瑠璃だったので、「加賀宝生に越中浄瑠璃」のことばが生まれた。目の肥えた芝居好きが多く、東京や大阪の名優たちもしばしば来演した。「一口浄瑠璃と親の家を知らぬ者はない」といわれるくらい、明治の若者に親しまれた。他国へ廻る売薬さんにも、名手が多かった。

寺野守水の句碑
（高岡市和田、西光寺境内）

俳諧から俳句へ

伝統的な俳諧の、旧派一方の旗がしら寺野守水（一八三六～一九〇七）は、正岡子規の新派、日本派俳句の若きリーダー河東碧梧桐との交友により、筏井竹の門（一八七一～一九二五）山口花笠（一八七八～一九四四）らに呼びかけ、明治三十年日本派の越友会を結成。富山俳壇の発展に大きい役割りを果した。また、報知新聞富山支局長として赴任した前田普羅（一八八五～一九五四）も、退職後富山を第二の故郷として俳壇に活躍した。

前田普羅と句集

角川源義の句

富山市水橋も俳句活動の盛んなところで、金尾梅の門（一九〇〇～八〇）や、角川書店の創始者、角川源義（一九一七～七五）らの句作は、この地から誕生した。

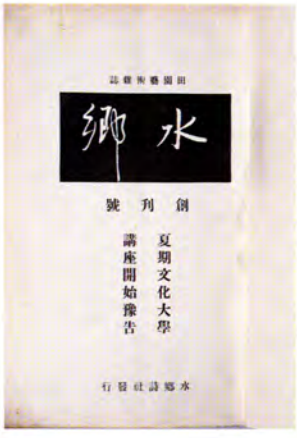
金尾梅の門の句集
「鳶」「鵙」「鷗」

名優の富山来演
六代目尾上菊五郎が、大正四年第三福助座（現帝国館）で演じた「貞操花鳥羽恋塚」の遠藤武者盛遠

水橋の「水郷」（大正十三年）夏期文化大学の開設は、今日の生涯学習のはしりであろう。

大正の地方文芸誌

大正に入ると、文芸活動もデモクラシーの花が咲く。一般大衆にまで文芸愛好の底辺が拡がり、富山・高岡・魚津はもとより、富山市水橋の「東天紅」「水郷」や、庄川町青島の「月見草」、福光町の「きくな」などの、総合文芸誌が発刊される。内容は、極めて多彩。氷見の現代詩活動も見のがせない。



歌壇と詩壇

歌人、筏井嘉一（一八九九～一九七一）の歌碑（右）は、父の俳人筏井竹の門の句碑と並んで、親子文学碑。高岡古城公園にある。

高島高の詩集

高島高（一九一〇～五五）は滑川市の医師だが、ふるさとのけわしい立山、剣岳を詩集「北方の詩」に清冽に歌いあげた。ほかに詩集「山脈地帯」「北の貌」もある。

画壇の巨匠ミロと滝口修造（左）
詩人滝口修造（一九〇三～七九）は、富山市大塚の生まれ。美術評論家としても活躍し、幾多の新鋭作家を育てあげた。

三島霜川

小寺菊子の著作

大正の作家

大正期の郷土出身の代表的作家は、三島霜川と小寺菊子であろう。三島霜川（一八七六～一九三四）は高岡市下麻生の医師の家に生まれた。父の死後、十八歳の時一家をあげて上京。尾崎紅葉に師事した。代表作は「解剖室」。晩年はもっぱら劇評を担当。「大正役者芸風記」などがある。

小寺菊子（一八七九～一九五六）は、富山市旅籠町の売薬商尾島家に生まれた。破産、父の死という悲劇のもと、上京。三島霜川の紹介で金沢出身の徳田秋声に師事し、田村俊子、岡田八千代と並んで「大正の三閨秀」ともてはやされ、「父の罪」などの名作を残した。

芥川賞・直木賞の作家たち

柏原兵三の著書と筆跡

源氏鶏太（一九一二～）は、富山市泉町の売薬の家に生まれた。「たばこ娘」で直木賞。サラリーマン小説の新分野を開く。

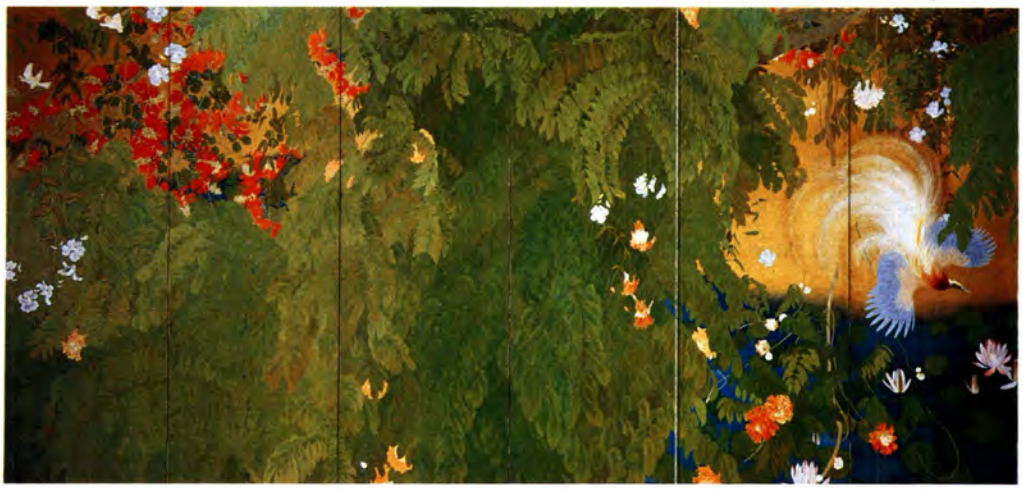
堀田善衛（一九一八～）は、高岡市伏木の回船問屋の生まれ。「広場の孤独」で芥川賞。文学に評論に活躍。

柏原兵三（一九三三～七二）は、幼いころ父の郷里入善町吉原に疎開。「徳山道助の帰郷」で芥川賞。「長い道」などの、疎開体験からくる富山の風土をテーマにした作品がある。

源氏鶏太

堀田善衛

狩野派の四天王の一人として、幕末から明治にかけて活躍した**木村立嶽**（一八二五～九〇）は、富山市の生まれで、藩のお抱え絵師。この「郭僕の図」のように、狩野派らしく中国高士を描いたものが多い。



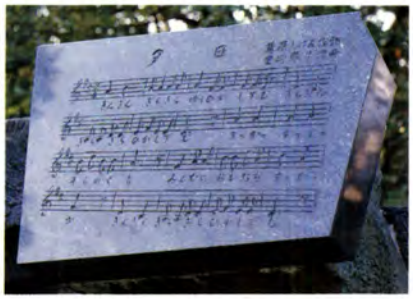
石崎光瑶（一八八四～一九四七）は、福光町の豪商の家に生まれた。京都画壇に属して華麗な花鳥画を得意とし、帝展、文展を通じて活躍した。大正七年文展特選作「熱国妍春」（六曲一双のうち半双）

郷倉千靱（一八九二～一九七五）は、小杉町の生まれ。日本美術院に属し同人となり、さらに芸術院会員となる。富山市立図書館にある、京都東本願寺壁画の大下図「釈尊父王に会いたもう図」

売薬版画は、売薬さんがお得意先に配ったおみやげ。絵師も、彫り師、刷り師も、版元も、ほとんど地元富山。なかでも、藩の絵師だった**松浦守美**（一八二四～八六）や、**尾竹国一**（越堂）（一八六八～一九三二）の作品はすぐれている。

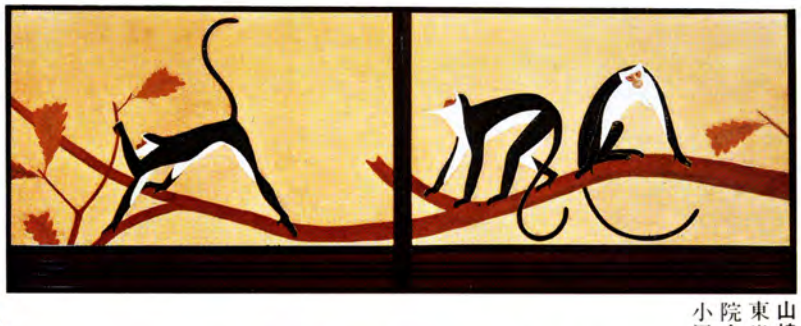
尾竹国一の芝居絵

松本謙三（一八九九～一九八〇）は、城端町の生まれ。能楽の、下懸り宝生流の国指定重要無形文化財保持者。演ずるは「安宅」のワキの富樫



「ギンギンギラギラ、夕日が沈む」の作曲で親しまれた**室崎琴月**（一八九一～一九七七）は高岡市の生まれ。古城公園にはその作曲譜の碑がある。

高階哲夫（一八九六～一九四五）は、滑川市出身。バイオリニストで作曲家。その作詩作曲の「時計台の鐘」にちなんで、滑川市東福寺野自然公園に時計台が建てられている。



山崎覚太郎（一八九九～）は富山市東岩瀬の生まれ。日展顧問、芸術院会員、文化功労者。作品は「猿」小屏風

佐々木大樹（一八八九～一九七八）は、宇奈月町音沢の生まれ。日展参与。作品は木彫「心象」。宇奈月温泉の大原台には、原型遺作「平和の像」がそば立っている。

石黒宗麿（一八九三～一九六八）は、新湊市久々湊の生まれ。国指定の重要無形文化財保持者（鉄釉陶器）。作品は「黄釉刻線人物文壺」富山県蔵

高岡市の**須賀松園**（一八九八～一九七九）は、国指定の無形文化財保持者（蝋型鋳造）。作品は「ねこ」昭和四十三年日展

横江嘉純（一八八八～一九六二）は、八尾町石戸の生まれ。帝展で「大乗」が特選。日展参事。高岡市立図書館横にある「祈り」

文化勲章に輝く

山田孝雄（よしお）

（一八七三～一九五八）

独学力行で文学博士、文化勲章、富山市名誉市民という偉大な学者。富山市総曲輪に生まれ、父の失職で富山県尋常中学（現富山高校）を一年で退学。家計を助けるために小学校教員の検定試験に合格し、草島、上市、下村小学校に奉職。往復二〇キロにも及ぶ道を、通いつめた。「私の健康は、若い時に遠くの学校へ歩いて通ったからです」と晩年に語っている。

さらに中学校、師範学校教員の検定にも合格。兵庫、奈良、高知の中学教諭から、日本大学、東北大学教授となり、「日本文法論」で文学博士。神宮皇学館大学学長、貴族院勅選議員、文化勲章と、努力一筋の人生だった。著書は主なものでも百冊を数える。

その著「安芸転任日記」（高知県安芸中学の時のもの）によれば「余が性、もと単刀直入的なり。電光石火的なり」「実質を過重するなり。質朴主義の極端なり」と、目標をたてたらやりぬく不退の決意と、質実剛健ぶりを述べているが、また「清濁あわせ飲むの慨あらず」「従容せまらざる底の雅量なく」と反省もしている。

富山市役所の構内に「百千度（ちたび）くりかへしても読（よむ）毎（ごと）にこと新（あら）なり古之典（ふるのふみ）」の歌碑がある。また人一倍富山を愛し「国めぐり山々見れば古里のこしの立山たぐひなきかな」の歌もある。

立山町出身の**翁久允**（一八八八～一九七三）は、中央文壇で活躍したが、昭和十一年富山へ帰り、郷土研究雑誌「**高志人**」を創刊。三十七年間も続けて、富山文化の振興に尽した。

県展は、昭和二十一年開催以来、全国でも屈指の伝統を誇り、東京の県展選抜展でも数多く受賞。日展の雄、下保昭をはじめ、県作家の登龍門となり、富山美術家集団のエネルギーを物語っている。

昭和五十六年・第三十六回県展

初期県展の目録

●健康・福祉と国際交流

広い視野 すこやかな生活

第十三回国体秋季富山大会
昭和三十三年、富山県下一円で挙行された。初の民宿大会として名を挙げ、県民のスポーツ熱を高揚した。

ママさんバレー
家庭婦人のスポーツ熱がいちじるしく盛んになった。

ゲートボール
高齢者に人気があり、男女を問わず、楽しんでいる。

イタイイタイ病検診
昭和四十三年、公害病に認定

テレメーター
昭和四十五年、県庁内に設置され公害発生を予知している。

県民の活力を増進する

明治時代の一般的運動は、相撲・盤持・武道であった。欧米スポーツの野球・庭球が登場したのは、明治中ごろの中学校・女学校においてである。大正期には、水泳・スキー・登山も普及した。昭和に入ると、スポーツは県民の体育として、施設が充実して各種の競技大会が催された。戦後は、見るスポーツから参加するスポーツに変った。昭和二十三年に第一回県民体育大会、三十三年に第十三回国体富山大会が挙行された。今日では、県民ひとり一スポーツをスローガンに、家庭・職場・地域・各団体において、健康第一と、スポーツを楽しむ人が多い。スポーツ公園・運動広場にあがる歓声こそ、今日の富山県を支える力である。

暮らしの福祉を支える

明治、大正時代の本県の社会福祉活動は慈善であった。初めは主に有志の義援金や奉仕活動によったが、明治二十二年に日赤富山支部が創設され、二十三年以後は市町村負担の救済がとられた。

県内では大正十二年、高岡市に始まった方面委員制度は、貧困、児童、失業の救済と保護に当り、昭和十年に県下にあまねく実施された。一方、大正十五年に施行された健康保険法により厚生事業が推進された。

昭和四年救護法の制定と共に、母子、医療、軍事扶助などの道がひらけ、戦後はGHQの指導などから、二十一年に生活保護法が成立し、以来、福祉政策は急激に進展し、厚生に救護にと生活の安らぎを増やしてきている。

青年の船
昭和四十六年以来韓国・中国・ソ連・東南アジア・ブラジルなど毎年訪問。国際交流を推進

松村謙三と周恩来
昭和三十八年、中国から招請された松村謙三は、周恩来首相と懇談

ホームヘルパーの奉仕活動
ひとりぐらしの老人に明るい生活をもたらしている。

婦人の翼
昭和56年に初めて西ドイツ・フランスへ派遣

県費留学生引受け
昭和47年以来、ブラジル・韓国・アルゼンチンなどから県内へ

健康増進センター
昭和56年に富山市蜷川に設立。健康増進・総合検診・健康教育の3機能を完備

身障者のスポーツ大会　昭和40年以来、身障者自らの力でスポーツ大会を挙行。社会復帰への努力の姿に拍手を送りたい。

伸展する国際交流

国際化時代を迎えて、青年の船、婦人の翼、一般県民の海外視察、海外留学生の受入れ、友好使節団の派遣、姉妹都市の提携など、国際親善交流は高まり、県民の視野は国際的にひろがった。特に隣邦中国との友好は著しい。また、吉田工業、不二越など、企業の海外における工場設置や技術提携も、国際交流の一翼をになっている。

ひらけ富山新世紀

アラビアン・ナイトの人たちは、「開け！ゴマ」の呪文を唱えて、豊かな幸せの未来を求めた。しかし、現れたのは蜃気楼のような幻の世界。私たちの未来は、幻であってはならない。

「活力と温かい心に満ちた美しいふるさと富山県」をめざし、県民みんなで唱えよう、「開け！富山新世紀」と。

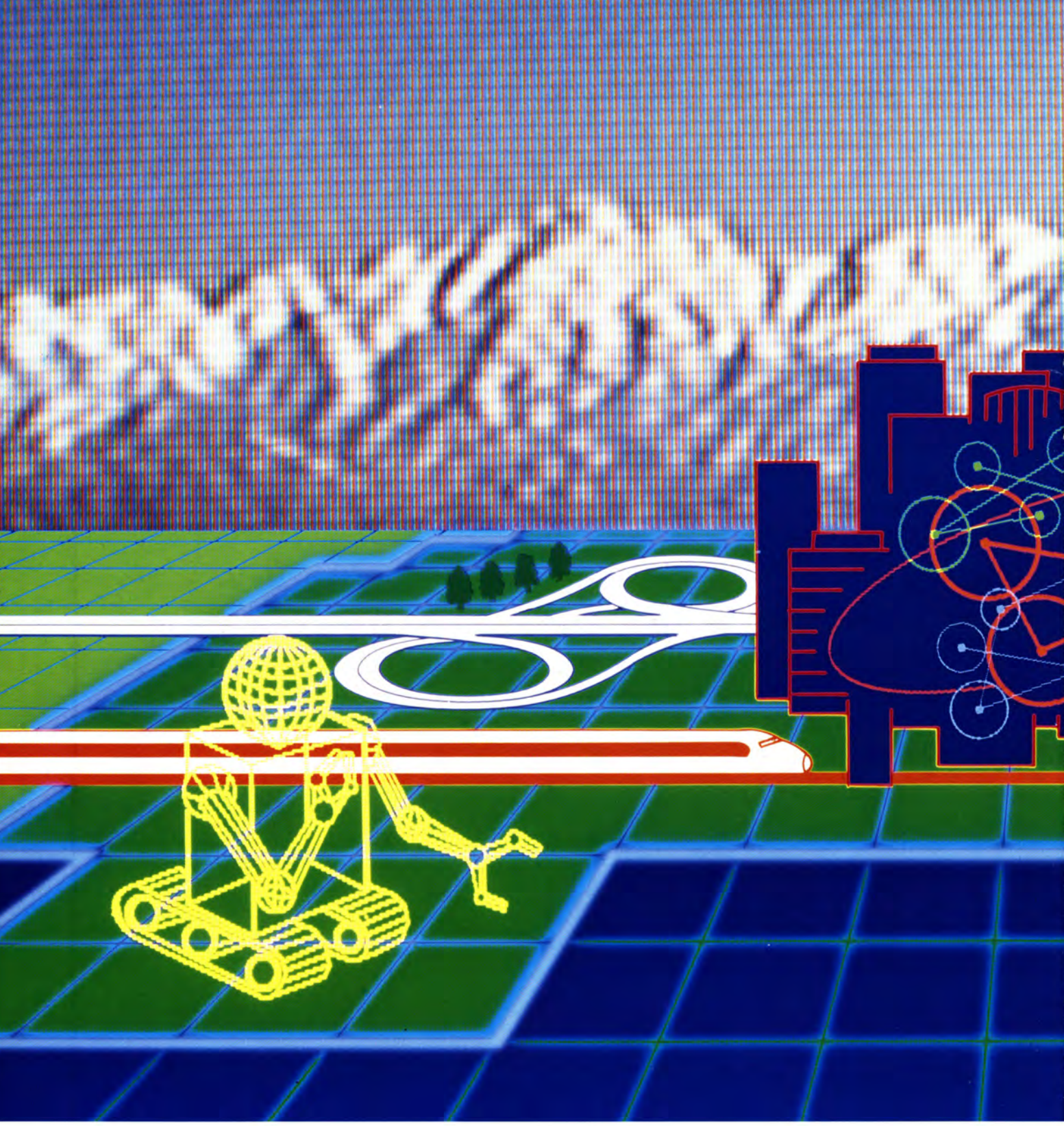
(1) 明日を拓く人づくり

楽しい健康づくりに、みんなの笑顔は絶えない。

全国一を誇る大規模運動公園では国体競技が行われ、県ジュニア層は次々と記録更新。

県内各地では、国際文化フェスティバルが催され、生涯学習に打ち込む県民の瞳は輝く。

充実した医療、温かい福祉に恵まれた地域社会、お年寄りもみんな生き生きしている。



そして実現された「日本一の健康・スポーツ県」

(II) 魅力ある郷土づくり

県内縦横に走る高速交通網、東西大都市間を結ぶ北陸新幹線。ジェット機が飛ぶ、船が走る、全国各地へ世界の各地へ。

まちやむらには、花と緑が溢れ、大自然は、四季の彩りも鮮やかだ。住みよい郷土に働く人々、憩う人々の顔は明るい。

かくて達成された「日本一の花と緑の県」

(III) 活力ある産業づくり

適地適作の農業と、つくり育てる漁業は、富山の味を豊かにし、食膳をにぎわす。

「産」「学」「住」の機能が見事に結合したテクノポリス。創造性と高い技術力に支えられた新しい産業群と、働きがいのある職場。

また、壮大な富山産業展示館には世界各地の産品が。

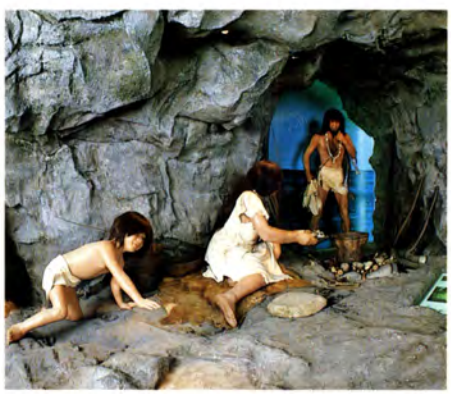
ここに出現した「日本一の科学・文化県」

※この絵は、富山県民総合計画答申に基づいて制作したものです。制作には、コンピュータに数値データを入力して得た図形（ロボット・ジェット機など）、とビデオカメラでとらえた立山連峰の画像、そして線画を基にカラーフィルムを合成して制作したイラストレーションを、一つの画面に特殊合成したものです。

富山県年表

時代	西暦	年号	できごと
先土器			直坂遺跡（大沢野町）など
縄文			朝日貝塚（氷見市）○不動堂遺跡（朝日町）など
弥生			大境洞窟（氷見市）○江上遺跡（上市町）など
古墳			王塚（婦中町）○桜谷（高岡市）○稚児塚（立山町）各古墳など
	六五八	（崇神？）	四道将軍大彦命を北陸に派遣と伝承
	六九〇頃	（斉明四）	越国守阿倍比羅夫、蝦夷征討
		（持統）	越を越前・越中・越後に分割
奈良	七〇三	大宝　二	越中から四郡を割き越後に帰属
	七四一	天平　一三	能登を越中に帰属
	七四八	天平　一八	大伴家持、越中国守となる
	七四七	天平　一九	砺波臣志留志、東大寺に多額の寄進（二十年後にも墾田寄進）
	七五七	天平宝字　一	能登、越中から分離独立
平安	八〇四	延暦　二三	越中、上国に定められる
	八一〇	弘仁　一	越中の史生・習語生、渤海語を学習
		（平安初期）	立山開山
	九二七	延長　五	延喜式に越中国神社三四座を登載
	一〇四三	長久　四	本朝法華験記に立山地獄談収録
	一一八三	寿永　二	木曽義仲、砺波山で平氏を破る。石黒・宮崎党ら越中豪族も参戦。
鎌倉	一一八七	文治　三	奥州落ちの源義経が通過したと伝承
	一二一二	建暦　二	この頃、越中に法然門弟多し
	一二二一	承久　三	承久の変、越中の宮方軍宮崎党ら敗北
	一二七九	弘安　二	一遍、放生津で布教
	一三三三	元弘　三	放生津城落城、守護名越時有滅ぶ
南北朝	一三三四	興国　三	宗良親王越中に入り南朝のため画策
	一三五五	正平　一〇	南朝方の守護桃井直常、京都を攻略
	一三八〇	康暦　二	畠山基国、越中守護となる
室町	一三九〇	明徳　一	綽如、井波に瑞泉寺を建立
	一三九八	応永　五	富山郷、山城東岩蔵寺領となる（富山の地名の初見）
	一四七三	文明　五	蓮如、井波瑞泉寺に下向
	一四九三	明応　二	将軍足利義材、追われて越中に下向
	一五〇一	文亀　一	赤尾道宗、心得二十一ヶ条を述作
	一五〇六	永正　三	一向一揆、守護方・越後勢を破る
	一五一〇	永正　一七	長尾為景、神保慶宗らを滅ぼす

時代	西暦	年号	できごと
安土桃山	一五四四	天文　一三	神保長職・椎名長常、富山で争う
	一五六〇	永禄　三	上杉謙信、富山城の神保長職を討つ
	一五六五	永禄　八	顕如、武田信玄と結び、謙信と敵対
	一五六八	永禄　一一	椎名康胤、謙信に背き、神保長職、謙信と結ぶ
	一五七八	天正　六	越中・能登を制圧した謙信急死○織田信長、神保長住を越中に入れ富山城に置く
	一五八〇	天正　八	神通川氾濫。以後、河身東転
	一五八一	天正　九	佐々成政、越中に入り富山城在城
	一五八四	天正　一二	成政、前田利家と能登末森で戦う。冬、立山を越え徳川家康と会う
	一五八五	天正　一三	豊臣秀吉、富山城を攻めて成政を降し、前田利長に婦負・射水・砺波三郡を与える○木舟地震○庄川の河身東転
江戸	一五八七	天正　一五	成政、肥後に移封
	一五九五	文禄　四	利家、新川郡を領知
	一五九七	慶長　二	利長、守山城より富山城に移る
	一六〇四	慶長　九	加賀藩十村制をしく
	一六〇五	慶長　一〇	越中総検地
	一六〇九	慶長　一四	富山大火、富山城も焼失。利長、高岡に築城移住、高岡町を開く
	一六一四	寛永　一	牛ヶ首用水着工
	一六一九	寛永　一六	前田利次、富山十万石に分封
	一六五一	慶安　四	改作法はじまる
	一六五六	明暦　二	村御印（村々の年貢割符状）下付
	一六六二	寛文　二	愛本橋架設
	一六六三	寛文　三	七木の制○芹谷野用水着工
	一六七〇	寛文　一〇	村御印改訂○庄川の松川除着工
	一六七四	延宝　二	富山藩、飛騨との国境争いに敗訴
	一六七五	延宝　三	富山大火
	一六八九	元禄　二	芭蕉、越中を通過
	一六九〇	元禄　三	二代藩主前田正甫、反魂丹を松井屋源右衛門に販売させる。富山売薬のはじめと伝承
	一六九三	元禄　六	加賀藩、土地売買を許す
	一六九五	元禄　八	浪化、有磯海・砺波山撰刊
	一七一六	享保　一	泊町、津波のため流失
	一七五七	宝暦　七	不作。城端騒動
	一七七七	明和　四	このころ反魂丹売薬さかんとなる
	一七七二	明和　九	庄川大洪水、松川除欠壊



氷見の大境洞窟
大昔の越中人は、台地の横穴などに住み、石器、骨器を使って狩猟や漁撈をし、自然の野菜をとって暮らしていた。大正七年発掘された大境洞窟は、遺物を包含する堆積層がはっきり、縄文期・弥生期などの時代層を証明した貴重な遺跡である。氷見市立博物館の展示

大伴家持　鵜川立ち
「咲く花の匂うがごとし」といわれた奈良時代、越中国守として満五年在任した大伴家持は、万葉集に数々の名歌を残した。この絵は「婦負川の早き瀬ごとにかがりさし　八十伴の男は鵜川立ちけり」の場面を描いたもの。婦中町鵜坂神社蔵

明治

一七七三	安永 二	富山藩校広徳館創設
一七八三	天明 三	冷害○常願寺川など大洪水
一八〇八	文化 五	ロシア南下、富山藩出兵準備
一八一〇	文化 七	舟倉野用水着工
一八一三	文化 一〇	富山藩領百姓一揆
一八一九	文政 二	加賀藩、十村十四名を能登島に流す
一八三一	天保 二	富山大火、八千戸焼失
一八三五	天保 六	石黒信由、三州測量図籍完成
一八三七	天保 八	飢饉のため死者多数。徳政令施行
一八三九	天保 一〇	椎名道三、十二貫野用水着工
一八四三	天保 一四	越中北前船長者丸の漂民、日本領択捉島に送還され五年ぶりで帰国
一八五〇	嘉永 三	伏木などに台場構築
一八五三	嘉永 六	十代藩主前田利保、本草通串編刊
一八五七	安政 四	富山藩家老富田兵部割腹。加賀藩、富山藩への介入はじめる
一八五八	安政 五	立山大鳶くずれ、常願寺川大洪水○高岡など各地で暴動
一八五九	安政 六	ロシアの軍艦、富山湾侵入測量
一八六四	元治 一	富山藩士島田勝摩、家老山田嘉膳を城大手前で殺害
一八六七	慶応 三	●大政奉還●王政復古
一八六八	明治 一	富山・加賀両藩、北越戦争に出兵
一八六九	明治 二	版籍奉還。加賀藩主・富山藩主、知藩事に任命○新川地方ばんどり騒動
一八七〇	明治 三	富山藩一宗一寺の合寺令強行
一八七一	明治 四	●廃藩置県 七月、富山藩領（婦負郡、新川郡の一部）を富山県に、金沢藩領（新川郡の一部、射水郡、砺波郡）を金沢県にする。十一月、富山県を廃し新川県（新川、婦負、砺波三郡）を置く。県庁は魚津町に設置。射水郡は七尾県に編入
一八七二	明治 五	●学制発布 射水郡も入れ、越中全域を新川県とし、大区小区制実施
一八七三	明治 六	県庁を魚津から富山城跡へ移転○各地で小学校創立○新川県小学校教員講習所創設（師範学校の前身）
一八七五	明治 八	地租改正実施○伏木港に汽船入港○種痘院設置
一八七六	明治 九	新川県を廃し、石川県に併合○広貫堂創設
一八七七	明治 一〇	海内果ら相益社を結成、県下最初の雑誌相益社談を小杉町で発刊○西南戦争に出兵○地租改正にからみ砺波農民騒動○電信線の架設着工
一八七八	明治 一一	天皇、北陸巡幸○第百二十三国立銀行設立○五郡に郡役所設置
一八七九	明治 一二	石川県会開く（県会のはじめ）○県下にコレラ大流行
一八八〇	明治 一三	富山商法会議所創設○稲垣示、北立社結成
一八八一	明治 一四	●国会開設の詔 島田孝之、北辰社結成
一八八二	明治 一五	北立自由党、越中改進党結成
一八八三	明治 一六	富山県、石川県から分離独立○置県初の県会議員選挙実施○富山第十二銀行設立○神通川舟橋を木橋に改架
一八八四	明治 一七	伏木測候所開設○中越新聞発行
一八八五	明治 一八	富山県中学校設立○稲垣示ら大阪事件に関与○富山大火○泊・富山・石動間を国道とする（国道八号線の前身）
一八八六	明治 一九	コレラ大流行
一八八九	明治 二二	●大日本帝国憲法発布 市制町村制施行、一市三一町二三八村となる○北陸公論発行
一八九〇	明治 二三	●第一回帝国議会 第一回衆議院議員選挙
一八九一	明治 二四	大洪水。デ・レーケの建策により常願寺川大改修および常西合口用水着工
一八九二	明治 二五	大選挙干渉。北陸自由党壮士ら、改進党支持者に暴行○農会の設置あいつぐ
一八九三	明治 二六	高岡紡績電灯会社設立
一八九四	明治 二七	県立工芸学校、県立農学校、共立富山薬学校設立○北海道移民本格化○日清戦争に歩兵第七連隊出動
一八九六	明治 二九	郡制実施。下新川、中新川、上新川、婦負、射水、氷見、東砺波、西砺波の八郡となる
一八九七	明治 三〇	中越鉄道黒田（高岡）福野間開通○富山電灯会社設立○米騒動
一八九九	明治 三二	敦賀・金沢間の北陸鉄道（北陸線）富山まで開通○伏木港開港場に指定○最初の水力発電所（大久保発電所）操業開始○富山大火
一九〇〇	明治 三三	庄川・小矢部川分離改修着工○高岡大火
一九〇一	明治 三四	神通川流路変更着工○富山県高等女学校設立
一九〇三	明治 三六	二代梅ヶ谷横綱となる

くりから合戦
寿永二年（一一八三）木曽義仲は、越中・加賀の国境くりから峠で、火牛の奇計を用いて平維盛の大軍をうちやぶり、上洛した。越中の宮崎党や石黒党は、義仲軍に加わって奮戦したが、義仲が源義経軍のため敗北したので、勇途空しく帰郷した。倶利伽羅神社蔵「倶利伽羅合戦絵図」

佐々成政・ザラザラ越え
富山城主佐々成政は、徳川家康と力をあわせて、豊臣秀吉を討とうとはかった。天正十二年（一五八四）厳冬の立山ザラ峠を踏破して、浜松城（静岡県）にいる家康と会い、決起をうながしたが失敗。同十三年秀吉に攻められて、降服した。日満産業大博覧会の展示

一九〇四	明治 三七	日露戦争に第九師団出動○米穀検査取締規則制定
一九〇六	明治 三九	県内初の電話、富山市で開通
一九〇七	明治 四〇	富山に歩兵第三一旅団司令部、歩兵六九連隊新設○柴崎測量官一行剱岳登頂に成功、頂上で古代の錫杖発見
一九〇八	明治 四一	上野八郎右衛門発明の大敷網普及
一九〇九	明治 四二	皇太子行啓
一九一一	明治 四四	太刀山、横綱となる
一九一三	大正 二	北陸本線全通○一府八県連合共進会開催○魚津水族館開館○ガス供給開始○富山に市街電車開通
一九一四	大正 三	●第一次世界大戦 台風により諸川大洪水
一九一六	大正 五	米人アート・スミス、富山で飛行
一九一七	大正 六	工場建設さかん○大雪
一九一八	大正 七	第九師団シベリア出兵○米騒動全国に波及○大境洞窟・朝日貝塚発見○スペイン風邪流行
一九二〇	大正 九	●第一回国勢調査 県営水力電気事業開始
一九二三	大正 一二	県立富山薬業専門学校、官立となる
一九二三	大正 一二	●関東大震災 郡制廃止。郡役所廃止○初の百貨店、岡部呉服店開業○七年制富山県立高等学校設置
一九二四	大正 一三	北陸地方陸軍特別大演習統監のため摂政宮（今上陛下）行啓○官立高岡高等商業学校設置
一九二五	大正 一四	●治安維持法、普通選挙法 軍縮で富山歩兵第六九連隊廃止、歩兵第三五連隊富山移駐○冠松次郎、黒部峡谷をさかのぼる○立山御歌作曲
一九二六	大正 一五	ダム建設にからみ庄川で流木事件○富山市営乗合自動車運転開始
一九二七	昭和 二	●金融恐慌 ブラジル移民アリアンサ富山村建設○普選初の富山県会議員選挙○小作組合連合会○庄川と黒部川の用水合口事業着工○滑川町で電気争議○大雪
一九二八	昭和 三	不二越鋼材工業設立
一九三〇	昭和 五	県庁舎焼失○県下初、高岡市水道給水開始○小作争議ひん発
一九三一	昭和 六	県下初のメーデー○県下の銀行、取付け騒ぎ ○満州事変勃発、郷土部隊も出動
一九三二	昭和 七	●五・一五事件

一九三三	昭和 八	富山飛行場、倉垣で開港。翌年東京・富山間定期運航開始○はじめて満蒙開拓団出発○魚津で埋没林発見
一九三四	昭和 九	高山線開通○大洪水○立山黒部が国立公園に指定
一九三五	昭和 一〇	富岩運河完成○新県庁舎、神通川廃川地に竣工○NHK富山放送局開局
一九三六	昭和 一一	●二・二六事件 日満産業大博覧会開催
一九三七	昭和 一二	支那事変勃発、郷土部隊も出動
一九三八	昭和 一三	産業報国会運動始まる○木炭バス走る○志合谷なだれで六五名死亡○氷見町大火
一九三九	昭和 一四	●第二次世界大戦 東岩瀬港、開港場に指定
一九四〇	昭和 一五	●日独伊三国同盟 ●大政翼賛会 大雪○富山県立図書館開館○地方紙の統合で北日本新聞誕生
一九四一	昭和 一六	●太平洋戦争 飯米配給制○富山県民道場設置
一九四二	昭和 一七	北陸配電会社設立
一九四三	昭和 一八	県下の四銀行統合し北陸銀行誕生○私鉄を富山地方鉄道に統合
一九四四	昭和 一九	集団疎開学童来る○不二越など富山県の十六社軍需工場に指定
一九四五	昭和 二〇	●ポツダム宣言受諾 富山市空襲を受け大半焦土化○連合国軍、昭和二十七年まで県下に駐留
一九四六	昭和 二一	●日本国憲法公布 富山新聞発行○富山県労協結成○富山県食糧人民大会○第一回富山県美術展覧会
一九四七	昭和 二二	●地方自治法施行 ●労働三法制定 新制中学校一〇五校発足○県知事、市町村長の公選始まる○天皇行幸○農地改革始まる○初の女性県議誕生○初の婦人警官採用
一九四八	昭和 二三	第一回県民体育大会開催○新制高等学校発足
一九四九	昭和 二四	富山大学設置
一九五〇	昭和 二五	●朝鮮戦争勃発 県営富山球場開設
一九五一	昭和 二六	●講和条約、日米安全保障条約調印 電力事業再編成、北陸電力発足○高岡で産業博覧会開催○黒部川流水客土事業着工

前田正甫　反魂丹製造を視察
越中売薬は、富山藩二代藩主前田正甫の頃にはじまるといわれ、元禄（一六八八～）以来三百年の伝統を誇る。今も、富山のシンボルとして、全国に親しまれている。薬種商の館「金岡邸」（富山市新庄町）の展示

北越戦争に富山藩出陣
明治元年（一八六八）加賀・富山藩は、北陸道鎮撫軍に参加して、長岡藩（新潟県）討伐のため越後平野に転戦した。勇躍出陣する富山藩兵と、無事凱旋を祈って見送る庶民の姿は、物情騒然たる明治維新を物語っている。県立図書館蔵「富山藩士出陣之図」

一九五二	昭和二七	富山県総合開発計画策定○北日本放送、ラジオ放送開始
一九五三	昭和二八	町村合併すすむ
一九五四	昭和二九	●自衛隊発足 富山産業大博覧会開催○立山ケーブルカー開通○チューリップを県花に選定
一九五六	昭和三一	●日ソ、国交回復 ●日本、国際連合に加盟 第一回南極観測隊に県人参加○魚津市大火
一九五七	昭和三二	山田孝雄文化勲章受章○国立職業補導所、高岡に設置
一九五八	昭和三三	第十三回国民体育大会開催○NHK富山テレビ放送開始○富山県民の歌制定
一九五九	昭和三四	KNBテレビ放送開始○黒部ダム工事にともなう黒部・大町ルート開通
一九六〇	昭和三五	●日米安保新条約調印 呉羽三ノ熊に県内初のゴルフ場開設
一九六一	昭和三六	有峰ダム完成○ライチョウを県鳥に指定○北陸線に特急「白鳥」登場
一九六二	昭和三七	県立大谷技術短期大学設置○北陸電力火力発電所建設○NHK・KNBカラーテレビ放送開始
一九六三	昭和三八	三八豪雪○黒四ダム完成○富山空港開港○県下にスーパー進出
一九六四	昭和三九	●東京オリンピック開催 ●東海道新幹線開通 富山・高岡地区、新産業都市に指定○氷見胡桃地区で大地すべり発生○県民会館設置○富山・金沢間の北陸線電化完成○富山市で初のボーリング場開場
一九六六	昭和四一	登山届出条例制定○技能オリンピックで県人優勝○タテヤマスギを県木に指定
一九六七	昭和四二	刀利ダム完工○県下初のカントリーエレベーター魚津に設置○全国初の国立登山研修所、立山町に設置
一九六八	昭和四三	富山県公害防止条例施行○富山新港開港○イタイイタイ病を公害病と認定○二上山・雨晴一帯を含む能登一円を国定公園に指定
一九六九	昭和四四	砺波市頼成で全国植樹祭開催○富山テレビ放送開始○富山ヒマラヤ隊グルジャ・ヒマール初登頂○洪水で富山大橋陥没、愛本橋流失

一九七〇	昭和四五	○富山大学紛争激化 ●日本万国博開催 黒部市でカドミウム禍発生
一九七一	昭和四六	立山黒部アルペンルート全線開通○第一回青年の船出航○富山県議会議事堂完成○このころから自然保護運動さかん
一九七二	昭和四七	●沖縄本土復帰　●日中国交回復 立山風土記の丘開設
一九七三	昭和四八	●石油危機 北陸高速自動車道砺波・小杉間開通
一九七五	昭和五〇	頼成の森開園○富山医科薬科大学設置○ニホンカモシカを県獣に指定
一九七六	昭和五一	国体冬期大会（おおやま国体）開催
一九七七	昭和五二	県営極楽坂ゴンドラスキー場開設
一九七九	昭和五四	県立救命救急センター、業務開始○県栽培漁業センター設置
一九八一	昭和五六	五六豪雪○富山県立近代美術館開館○第一回婦人の翼出発○健康増進センター設置
一九八二	昭和五七	国際演劇利賀フェスティバル開催
一九八三	昭和五八	置県百年を迎える

写真・資料提供

富山県
富山県警察本部
各市町村
各市町村教育委員会
富山県立図書館
各市町村立図書館
富山県立近代美術館
富山県民会館
富山市郷土博物館
水橋郷土史料館
富山県教育記念館
高岡市立博物館
氷見市立博物館
魚津市歴史民俗資料館
各学校
北日本新聞社
富山新聞社
読売新聞社
NHK富山放送局
北日本放送
北陸電力
北陸銀行
不二越
佐藤工業
東洋紡績
呉羽カントリークラブ
城端織物工業協同組合
城南ホール
鵜坂神社
倶利伽羅神社
粟島俊雄
五十嵐精一
池田太吉
石崎直義
稲垣正二
大田栄太郎
小沢栄造
折橋礼一
柿沢キヌエ
片口淑子
彼谷芳水
北村洋誠
木津富佐
須賀正佐
前仏　勇
前仏謙亮
田中清一
田中忠一
谷田忠雄
中村太一路
西田康之助
能沢岩雄
原　玄一
広田寿三郎
能沢岩雄
平尾旨剛
藤原幸雄
堀田宏典
松村　博
丸田次子
水間直二
家森健一
八尾正治

・氏名は五十音順（敬称略）

置県百年記念誌 企画編集委員会

青柳正美
石上英将
○石崎直義
岩林　昭
○植村元覚（委員長）
○漆間元三
奥田淳爾
金岡とも子
小浜喜一
新村義孝
須山盛彰
高井　進
長井真隆
広田寿三郎
堀田　良
○八尾正治（委員長代行）
○山口　博

○印は専門編集委員

協力者
太田久夫
広瀬　誠

・氏名は五十音順（敬称略）

表紙：雨晴海岸から見た立山連峰

置県百年 富山県

発行日　昭和五十八年五月九日
発　行　富山県
富山市新総曲輪一―七
企　画　富山県知事公室広報課
製作・印刷　株式会社チューエッ
富山市上赤江町二―八―六

百年たちました　またここに新たな気流